

## 職員による自己評価

**A業務改善**

- ・コロナ禍の影響と職員体制の問題により、研修を受ける機会が減った。
- ・プロジェクトによる業務改善のシステムは確立したが、全体の意見反映が課題。

**B適切な支援の提供**

- ・療育プログラムや個々への支援に関する内容等については、職員間で丁寧に検討がなされ実施できている。

**C関係機関との連携**

- ・医療的ケア等の情報共有の流れは確立したが、今後は医療機関との連携方法が課題。意見書等の全センター共通化など。

**D保護者への説明責任等**

- ・昨年度同様、保護者と話す時間が減っている。保護者に伝える機会の確保と方法について検討。

**E非常時等の対応**

- ・マニュアルの整備と周知はできている。今後、虐待及び身体拘束に関する職員研修のさらなる充実を行う。

## 保護者による評価

**A適切な支援の提供**

- ・プログラムは多様に工夫されているが、プログラム自体のねらいや子どもに応じた課題などを保護者に伝える工夫が必要。

**B保護者への説明等**

- ・保護者への説明や情報の発信などは行われているが、コロナ禍で職員と対面でお話する機会が大幅に減っている。また、保護者同士の連携の支援も限られており、課題が生じている。

**C非常時等の対応**

- ・非常時の説明や緊急時の対応などの説明は実施している。今後は衛生管理についての具体的な説明や、実際に非常階段を用いた避難などの体験なども検討。

**D満足度**

- ・多くの方に通園でのサービスは満足しているとの評価をいただくことができた。ただし、定員の関係上、利用を希望される方全員の受け入れができないことは、引き続き大きな課題となっている。

## 通園課内での分析

**【共通点】**

- ・保護者と直接お話をする機会が減っており、充分伝えることができていないという点と、保護者連携の支援ができていないといった点は、双方共通の課題としてとらえている。

**【相違点】**

- ・職員側は個別支援計画の作成やプログラムの提供に関して丁寧に検討がされているが、利用者側からはプログラムのねらいや療育の要素などについて詳しい説明が求められている。保護者説明の機会と方法の検討が必要。

**【その他】**

- ・親子通園、単独通園とも利用希望者全員にサービス提供ができない状態が続いている。根本的な解決策が必要である。

## 分析・検討してみたて…

### 通園課の強み

- ・子どもに応じた計画の作成はされており、療育プログラムや環境設定などの工夫は充分されている。
- ・様々な状況を想定した緊急対応などのマニュアルの整備はされており、緊急時には迅速な対応ができています。
- ・利用開始時から日常の支援において、保護者への説明機会は十分に設けられている。

### 通園課の改善点

- ・保護者との対面機会の確保と、保護者連携支援の改善が必要。
- ・療育のねらいや活動の療育的な要素など、内容を細かく伝えることが必要。
- ・安定した職員体制の確保と、研修機会の提供について改善が必要。
- ・業務改善を検討する際、職員からの意見集約の方法を工夫することが必要。

### 通園課の改善への取り組み

- ・保護者との対面機会の創出を検討。（保護者の参加型のプログラムなど。）
- ・保護者に参加してもらう場合には、療育のねらいや活動の詳細などを伝える。
- ・職員の業務改善意見や研修希望を書面で集約して、職員業務に反映させる。
- ・医療関係機関への担当医意見書の共通フォーマットの使用などの検討を行う。

### ～自己評価を行っての通園課としての感想など～

今回も多くの方に、アンケートにご協力いただき誠にありがとうございました。

今年度も利用者の方々からは高い評価をいただき大変感謝しております。ただし、保護者との対面機会が減ったことの影響が明らかに出ておりますので、喫緊の課題として検討してまいります。また、利用ニーズ数にこたえられないという課題は、引き続き関係機関との交渉を粘り強く続けていきたいと思っております。

これからも、皆様から様々なご意見をお聞かせいただき、より満足していただけるよう一層の努力と改善を図ってまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひ致します。